

平成15年12月3日

中央社会保険医療協議会

会長 星野 進 保 殿

高度先進医療専門家会議

座長 猿田 享 男

別紙左欄の医療機関より承認申請のあった当該右欄に掲げる高度先進医療については、保険医療機関及び保険医療養担当規則（昭和32年厚生省令第15号）第5条の2第2項の規定に基づく高度先進医療として、承認することが適当と認められるので、別紙の通り報告する。

別 紙

医 療 機 関 名	高度先進医療の名称
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県立医科大学医学部附属病院 ・ 徳島大学病院 ・ 癌研究会附属病院 ・ 金沢大学医学部附属病院 ・ 金沢大学医学部附属病院 ・ 新潟大学医歯学総合病院 <p style="text-align: center;">(合計 5 医療機関)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物大立体モデルによる手術計画 (実施科の追加) ・ 子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断 ・ 体幹部病巣に対する直線加速器による定位放射線治療 ・ 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術 (新規) ・ カフェイン併用化学療法 (新規) ・ インプラント義歯 <p style="text-align: center;">(合計 6 件、6 種類)</p>

(参考)

各技術の概要

実施する高度先進医療（既存承認件数）	医療機関名	所在地	病床数	管理者	高度先進医療の内容・適応症等	担当科
実物大立体モデルによる手術計画（実施科の追加） （14施設）	福島県立医科大学医学部附属病院	福島県 福島市	824床	鈴木 仁	手術治療計画を目的としたコンピューターシミュレーションによる顔面骨等の三次元的臓器モデル作成。 適応症：顔面先天異常、顔面骨骨折、頭蓋骨欠損	形成外科、脳神経外科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断 （1施設）	徳島大学病院	徳島県 徳島市	670床	香川 征	患者組織よりDNAを抽出し、PCR-RFLP法で組織局在のヒトパピローマウイルス（HPV）の型を判定し、高危険性HPV感染を伴う子宮頸部異形性治療指針に応用する。 適応症：子宮頸部異形成	産科婦人科
体幹部病巣に対する直線加速器による 定位放射線治療 （4施設）	癌研究会附属病院	東京都 豊島区	502床	武藤 徹一郎	直線加速器によるX線ナロービームを用いて、ガントリーの円弧照射とテーブル回転による位置移動を組み合わせ得られる球形の照射野に、病巣を定めて一回で大量の線量を集中照射して、その組織を破壊する。 適応症：原発性・転移性肺癌	放射線科
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術 （新規）	金沢大学医学部附属病院	石川県 金沢市	832床	河崎 一夫	従来の脊椎椎体悪性腫瘍手術と異なり、病変に陥った脊椎の前半部分と後半部分とを切り離し、腫瘍を一塊として摘出することができるため、神経麻痺や疼痛等の症状の緩和、予後の改善が得られる。 適応症：原発性（悪性及び良性）脊椎腫瘍、転移性脊椎腫瘍	整形外科
カフェイン併用化学療法 （新規）	金沢大学医学部附属病院	石川県 金沢市	832床	河崎 一夫	各種抗癌剤とカフェインを併用することで治療効果をあげる。カフェインにはDNA修復阻害作用があり、抗癌剤の治療効果を増強する。相乗効果によって生存率等の改善が認められる。 適応症：悪性骨軟部腫瘍（ただし悪性神経鞘腫は除く）	整形外科

実施する高度先進医療（既存承認件数）	医療機関名	所在地	病床数	管理者	高度先進医療の内容・適応症等	担当科
インプラント義歯 (27施設)	新潟大学医歯学総合病院	新潟県 新潟市	40床	宮崎 秀夫	<p>歯が欠損した部の顎骨に人工歯根を埋入し、その歯根を土台として歯冠部を支持する義歯治療法である。</p> <p>適応症：顎骨の過度の吸収、外傷などによる歯牙欠損症で、従来の床義歯では咀嚼機能の回復が困難な症例 悪性腫瘍手術後の顎骨・歯牙欠損例で従来の床義歯では咀嚼機能の回復が困難な症例</p>	噛み合わせ 診療科、歯の 診療科、口腔 外科

高度先進医療の新規技術の概要について

○ 技術名称

「脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術」

【適 応 症】

原発性（悪性及び良性）脊椎腫瘍、転移性脊椎腫瘍

【技術の概要】

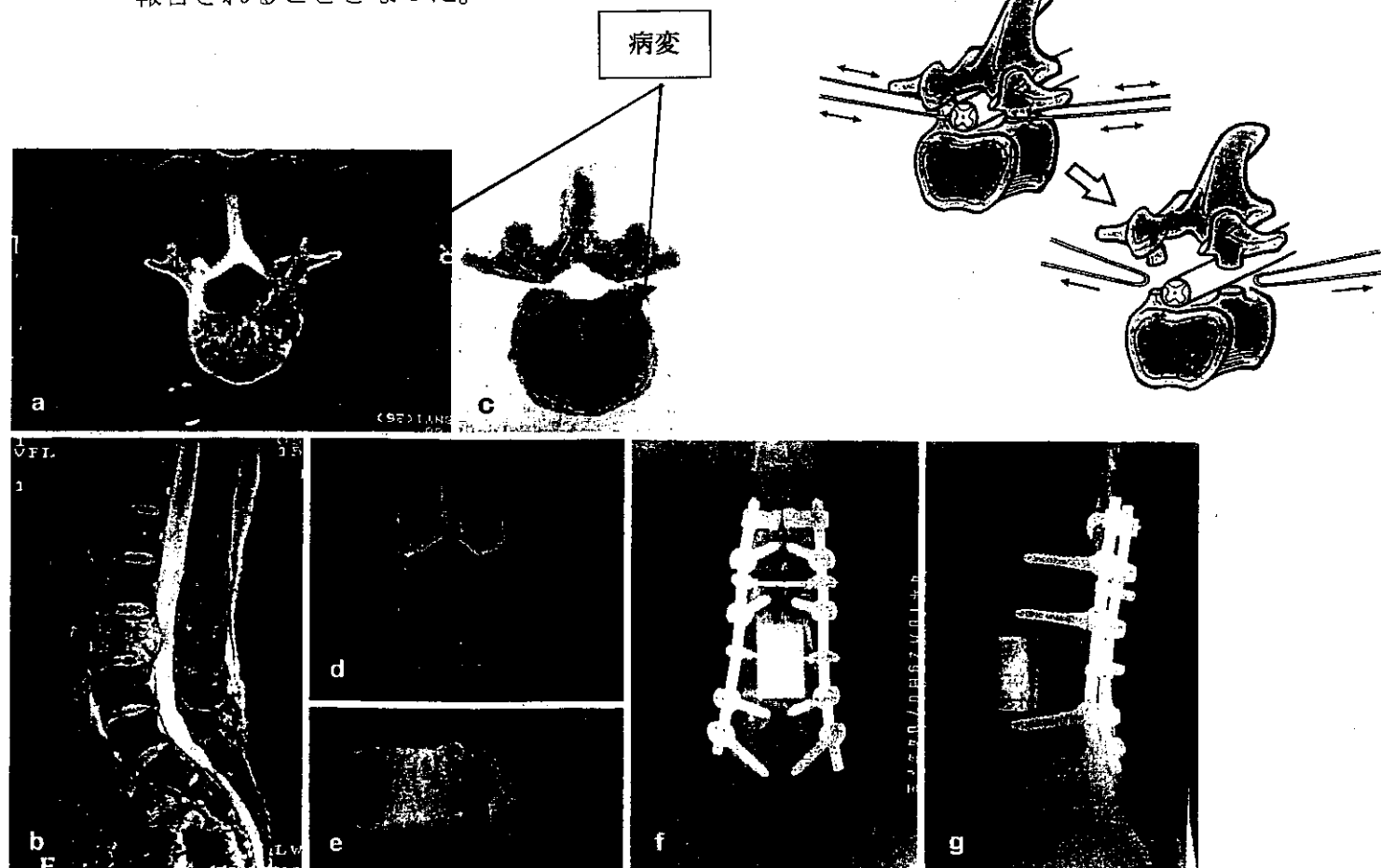
従来の脊椎椎体悪性腫瘍手術と異なり、病変に陥った脊椎の前方部分と後方部分とを切り離し、腫瘍を一塊として摘出することができるため、神経麻痺や疼痛等の症状の緩和、予後の改善が得られる。

○ 経過

申請：金沢大学医学部附属病院 平成14年1月22日 症例数95例

平成15年11月27日

高度先進医療専門家会議において、技術の高度先進性（骨腫瘍学的な専門知識と脊椎外科の専門的技術を必要とし、高度先進性がある。）、安全性、適応症等及び申請医療機関の適格性について検討の結果、高度先進医療の承認が適当と認められるとして中医協へ報告されることとなった。



高度先進医療の新規技術の概要について

○ 技術名称

「カフェイン併用化学療法」

【適 応 症】

悪性骨軟部腫瘍（ただし悪性神経鞘腫は除く。）

【技術の概要】

各種抗癌剤とカフェインを併用することで治療効果をあげる。カフェインには DNA 修復阻害作用があり、抗癌剤の治療効果を増強する。相乗効果によって治療成績等の改善が認められる。

○ 経過

申請：金沢大学医学部附属病院 平成14年1月22日 症例数128例

平成15年11月27日

高度先進医療専門家会議において、技術の高度先進性、安全性、適応症・有効性（骨軟部悪性腫瘍患者の術前・術後化学療法に対しカフェインの併用投与により治療成績が飛躍的に改善している。）及び申請医療機関の適格性について検討の結果、高度先進医療の承認が適当と認められるとして中医協へ報告されることとなった。

（骨肉腫）

	従来成績	当該技術の成績
局所の治療効果	約40%	100%
生存率（5年）	約50%	約85%



図3b 化学療法前MRI
大腿骨後方に突出した軟部組織への伸展を認める。



図3c 化学療法後MRI
大腿骨後方に進展した腫瘍の著明な縮小を認める。

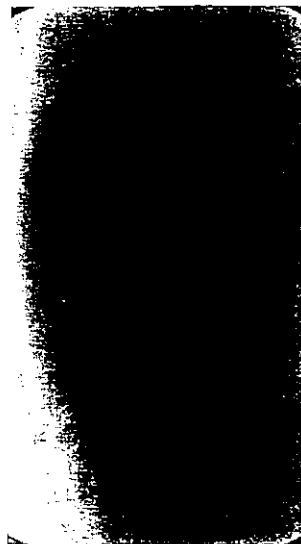


図3d 化学療法前血管造影
著明な腫瘍染色像を認める。



図3e 化学療法後血管造影
腫瘍染色像は消失している。



図3g 生検時組織標本
骨芽細胞型骨肉腫である。



図3h 切除標本の組織像
生細胞は全く存在せず化学療法の組織学的評価は complete response (Grade 3) であった。

⑥